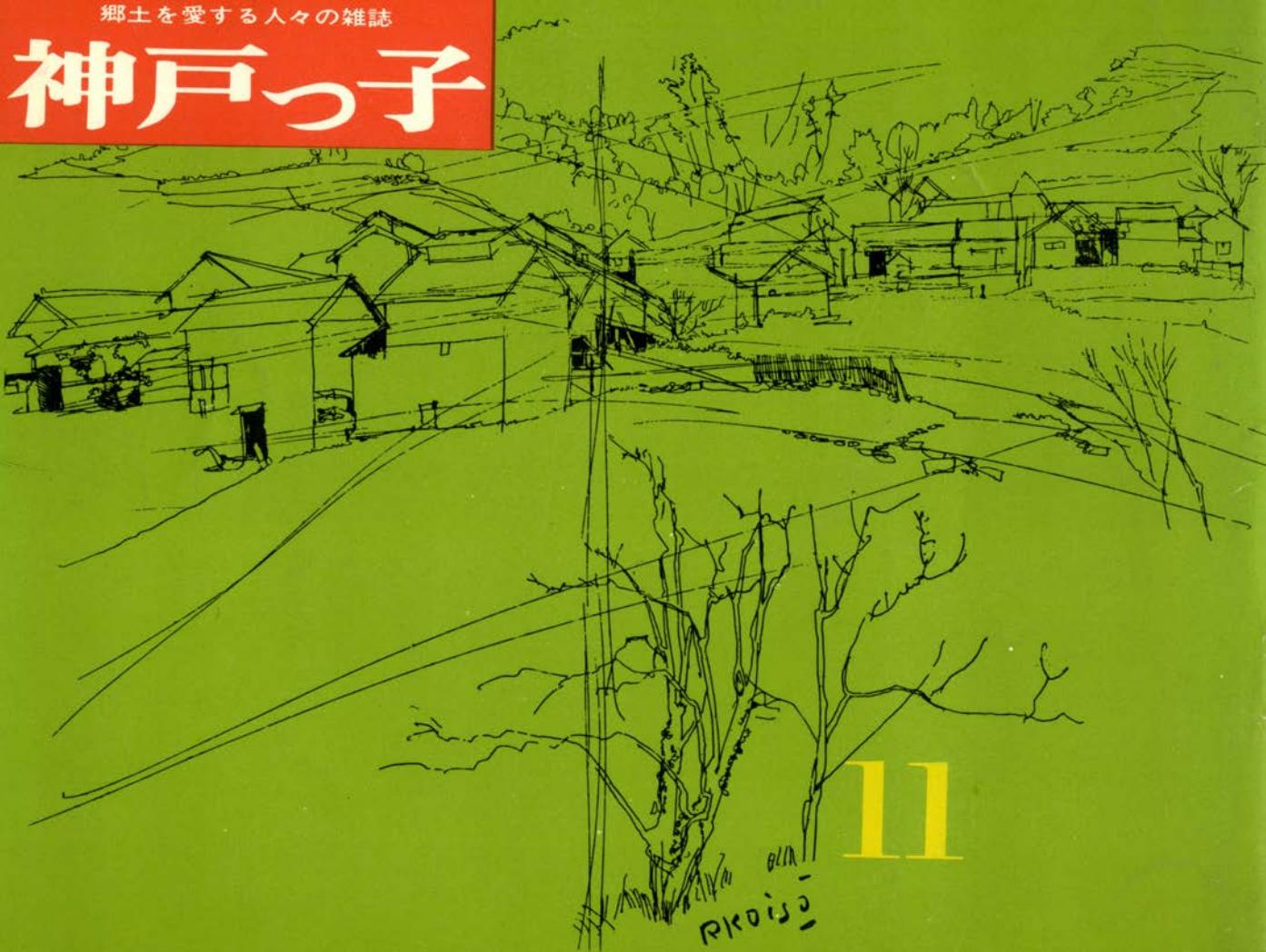


the kobekko
no.91
november 1968

神戸っ子 昭和40年1月20日第三種郵便物認可 昭和43年11月1日印刷 通巻91号 昭和43年11月1日発行 毎月一回

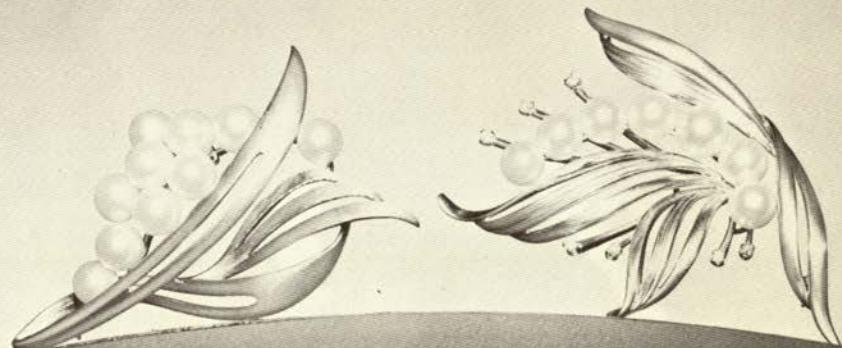
郷土を愛する人々の雑誌

神戸っ子



御木本真珠発明75周年

深まる秋の装いに
ミキモトの装身具
真珠のもつアリケートな美しさが
現代感覚にマッチした
新しいデザインに
活かされています



御木本真珠店

神戸店=三の宮-神戸国際会館 TEL. 22-0062

大阪支店=堂島-新大ビル TEL. 363-0247

京都=ミキモトパール京都(新門前通り) TEL. 541-8171

都ホテル・京都ホテル・京都国際ホテル

大阪=阪神・高島屋・松坂屋

本店=東京-銀座 4 丁目

★写真のブローチ右より PB<3636> WG製 ¥160,000

PB<753> G製 ¥38,000

車座

詩十絵 津高和一

カツコイイ イカスあいつは 胴体だけ

ハツキリと シヤベルそいつは 頭だけ

手は なにを握つた 足は どこを歩いた

反証は ゲラゲラ笑い

車座^{（くるわ）}にひたいを集め

コンピューター占いをする

風吹かれの人間たちよ





暖炉が
恋しい冬の訪れ
ケープ・セーター
カーディガン

ニット・ドレス
カセットの可愛い
コレクション

高級お仕立て・ブレタボルテ
舶来生地・アクセサリー・雑貨

*ジョリ

カセット

神戸・三宮・大丸前・市電筋浜側

TEL. 神戸 39-4992

東京・西銀座店

TEL. 573-3041-3

神戸つ子'68——江原美嘉（キュー・ティ・Q）

音のハーモニーは、七色の光に包まれる。照らし出された舞台は、昇りつくることのない音と光の表現である。揺れ動くフリルと、絶えまないリズムの躍動の中で、歌うキュー・ティ・Q。江原美嘉。大阪松竹歌劇団にいるうちに、なんとなくグループを結成。それが四年前のことと、名付け親が永六輔。

本当に歌が好きなのネ。結婚しても、また集まって歌いたいわ。それでCMソングにも力を入れてるの。今は日本人の誰もが歌えるのを歌いたい。それもスローな。ボサノバ調を。

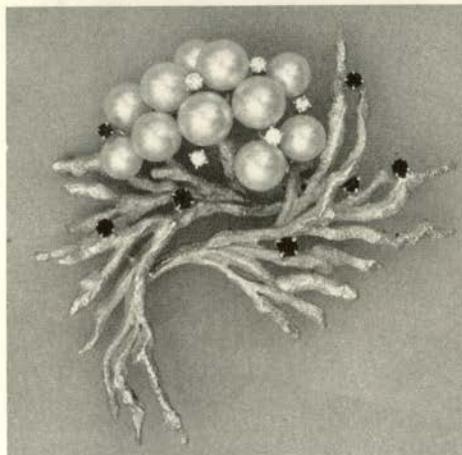
御影出身。東京で下宿生活を送る二十四才のお嬢さん。神戸は、帰るたびに変わっちゃって、と驚く。東芝レコード所属。

写真左は、ブラン・ド・ブランにて。

写真下は、舞台でのキュー・ティ・Q。左から二人目が江原美嘉さん。



TASAKI PEARLS



深海に輝やく タサキパールの微笑み

田崎真珠

本社・神戸市薺谷区旗塚通6-9
三宮店・神戸新聞会館秀品店内
パールファーム神戸・神戸市灘区六甲台町24
銀座店・東京都中央区銀座西6-5
パールファーム・溜池電停前(ショールーム)
ヒルトン店・東京ヒルトンホテル内
オータニ店・ホテル・ニューオータニ内
札幌店・札幌パークホテル内

あなたの真珠はパール・マークのお店で
日本真珠小売店協会加盟店

神戸つ子'68 — 須永克彦

（道化座）

アセンズ公の森は幻想の世界。シーシアスの宮殿は道化の舞台。
"真夏の夜の夢"は、道化座の十五期研究生の産物。

須永克彦。二十九才。職人ニック・ボトムは、舞台を縦横に駆ける。爆笑。四紀会・神戸小劇場を経て、八年前に道化座に入る。夏目後二氏の推奨する神戸新劇界のホーブ。九月の道化座小劇場公演サルトルの"恭しき娼婦"では、典型的なヤンキーを、軽妙なりズム感の語りで、観客を魅了した。

「どうせ、二枚目は廻ってこないし。カラマーゾフの兄弟」の親爺のようだ。人間の欲がギラギラとにじみでる役がいいね。

今秋、兵庫県新劇合同公演では、主人公の息子・宮田竹市を演じる

写真左・演じ終つてほつとひと息。写真下・児童文化会館"夏の夜の夢"。

カメラ・奈良勝彦





本格派の
人々に愛される
ヨシオカの靴

贈りものにヨシオカの
ギフトカードを
ぜひご利用ください
8,500円～15,000円まで

★靴のオーダーメード
ヨシオカ

神戸店
大丸前 33-5190・9763
東京店

渋谷 462-3436(直)
東急百貨店 日本橋 211-0511(代)



「これは立杭焼。まあ最低三千円です。さあ、どなたかいかが？」と、淡々会のお楽しみセリ市が始まった。「五千円！」「六千円！」入札する淡々会のメンバーは、自動車とタクシー業界の社長さんたち、二十四名のサムライ揃い。

昭和三十九年に（兵協、神協と二つのタクシー業界のグループがあつたが、商売の話をぬきにして、日頃縁のうすい、文化的な集いを持つて淡々とやろうではないか）と、兵庫日産自動車の中巻氏が音頭をとり、毎月一度顔をあわせることになつたもの。以来四年間、講師をまねいての勉強会、美術館観賞、古美術研究などを、お互いいの親睦をかねてつづけてきたわけである。

今月は、神戸新聞論説委員の梶真澄氏に「最近の世界あれこれ」から、チエコ問題、学生問題また架橋問題まで話題が広がつた。熱心な質疑応答のあとで、食事、そしてお楽しみセリ市のプログラム。出席率が非常に高く、月に一度の淡々会は、会長さんも幹事さんもなく、皆が同一という、リラックスな集いなのである。

★写真は、前列左から玉岡英一、河野繁、岡田喜太郎代理山田、植林喜造、枝松義男、中巻弘、梶真澄、榎本四郎、松本昇、植田二郎、後列左から安広幸一、山本正、蔵野義造、谷崎義光、志方米吉、永田政市、橋末一、中川只昭、中村峰雄、田畠春三郎（欠席者、森川正則、谷水一二、二木義雄、石倉正直）本文十八頁参照

ある集い
淡々会

ファッションの話題はくそごうが独占します

3階レディスフロア誕生！

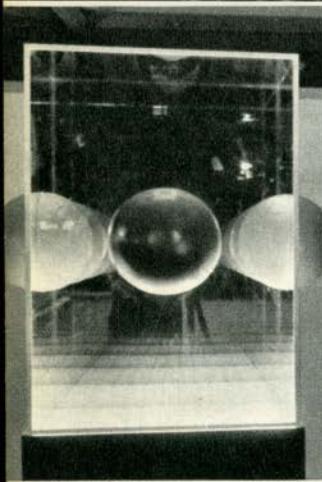


- そごうオーターサロン—オートクチュール エレガント
- 個性を生かすオリジナルショップ チェリー ウインザー マグー
- そごうフレタボルテサロン—ピエッセル
- そごうヤングレディスショップ—キュート
- そごう特選品サロン—バレ・ロアイアル
- そごうファンデーションサロン—ファンタジー



神戸三ノ宮
そごう

神戸(078)22-4181

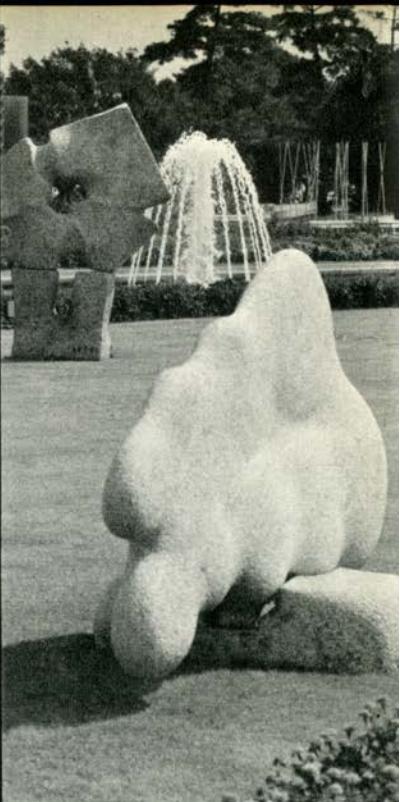


写真上・右から尾川宏・村岡三郎・広井力氏の作品
下左・河口電夫(四色の球体)
手前・新宮晋(デュエット)
奥・伊藤隆道
(光の点)

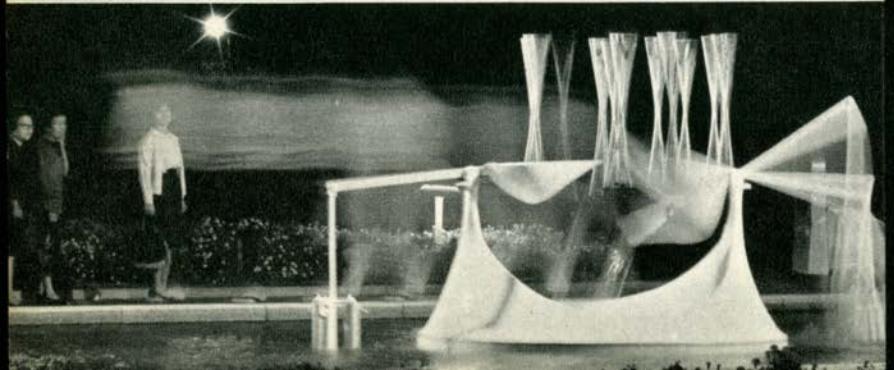
噴水が幻想的に満月に映える。須磨
離宮公園は都会のオアシスだ。
68年コウベ・ビエンナーレが開幕した
十月一日。離宮公園の森と滝から、
光と彫刻・風と彫刻・水と彫刻のテ
ーマでの現代野外彫刻展。くりひろげ
られる芸術は、現代日本の新進気鋭の
招待作家38名のイメージ。風車にあた
る風、浮かぶ水上の造型、夜空を彩ど
る光の点と線。造型の厳しさが感動的
神戸市・日本美術館企画協議会・朝
日新聞社の主催。十月四日の審査の結
果、大賞・神戸市長賞には飯田国氏の
Mirror on the constructionに決定。会
期は十一月十日まで、会期中は夜間開園

★コウベ・スナップ

秋を彩どる
コウベ・ビエンナーレ

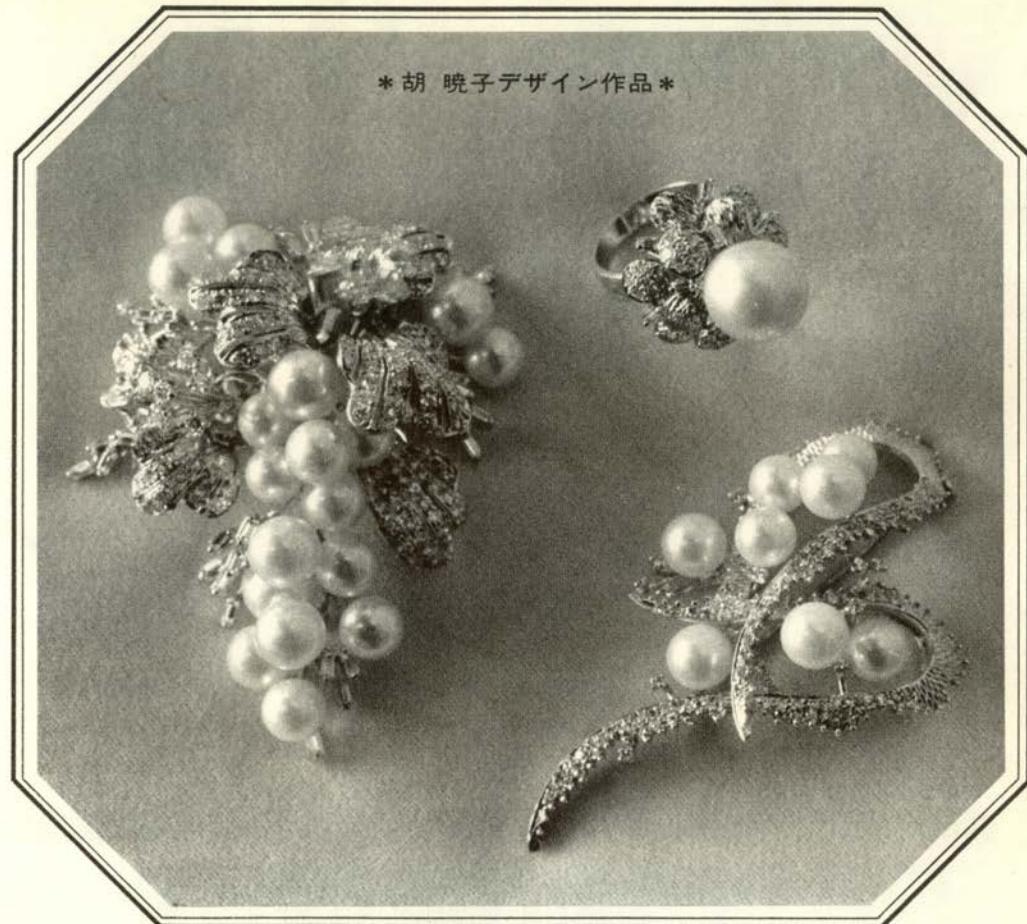


写真上・小林陸一郎(降りて来たアルワン・
ノチウ)



美しくはなやぐ パールの輝き

* 胡 暁子デザイン作品 *



村田*真珠/銀座山岡*毛皮/舶来婦人服飾



さんちか*レディースタウン・TEL 39-3886~7

有限会社・タイグレス

神戸店・神戸市生田区山本通り4-97村田真珠本社内 TEL (078)23-1212~6

東京店・東京都中央区銀座8-2山岡毛皮店内 TEL (03)572-0021~2

これは神戸を愛する人々の手帖です
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人々にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の手帖です

●11月号目次

表紙——小磯良平

1 Second Cover/津高和一

3 神戸っ子 68/撮影——奈良勝彦

①江原美嘉・②須永克彦

ある集い/淡々会

コウベ・ナッブ/秋を彩るコウベ・ビエンナーレ

わたしの意見/山口秀男

随想三題/日本青年彫刻家シンポジウム報告

・山口牧生/ロンドンだより・小川淳子/今

日の待祭・君本昌久

ある集い/その足あと/淡々会

隨想/田中健二郎

れんざい隨想・Rocking Chair V/十河敬

ジンギスカン鍋はなぜ流行る

阪本勝/伊藤慶之助

経済ボケットジャーナル

神戸のアーバンデザイン/水谷頸介+

技術ジャーナル/諸岡博熊

マンガ/ブレゼント(1)/岡田淳

CINEMA ⑧/淀川長治

動物園飼育日記⑨/筆井一成

百店会だより

読者サロン/大西信義

こうべ元町一〇〇年グラフ

座談会・神戸はしゃべく里万才の風土

夢路といし・喜味こいし+畿田正吉

元町一〇〇年物語(1)

神戸戯劇⑧/サイクリング/青木重雄

マダム・ド・コウベ/吉岡康栄さん/竹田洋太郎

リラックスインタビューリ/向井修二

ボケットジャーナル・花時計

夢路といし・喜味こいし+畿田正吉
元町一〇〇年物語(1)
読者サロン/大西信義
こうべ元町一〇〇年グラフ
座談会・神戸はしゃべく里万才の風土
夢路といし・喜味こいし+畿田正吉
元町一〇〇年物語(1)
神戸戯劇⑧/サイクリング/青木重雄
マダム・ド・コウベ/吉岡康栄さん/竹田洋太郎
リラックスインタビューリ/向井修二
ボケットジャーナル・花時計
連載物語第十四回・非恋童物語/足立巻一
連載小説/兵庫の女(三十三回)/武田繁太郎
レイアウト・カット/港野千穂

PORT LOOK/福富芳美

こうべるまん⑩/文・陳舜臣/カメラ・緒方しげを

カメラ/米田定蔵/奈良勝彦

レイアウト・カット/港野千穂

119 116 110 100 96 90 88 86 82 73 56 54 53 48 46 45 42 40 39

15 13 9 7

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

25 23 21 18

29

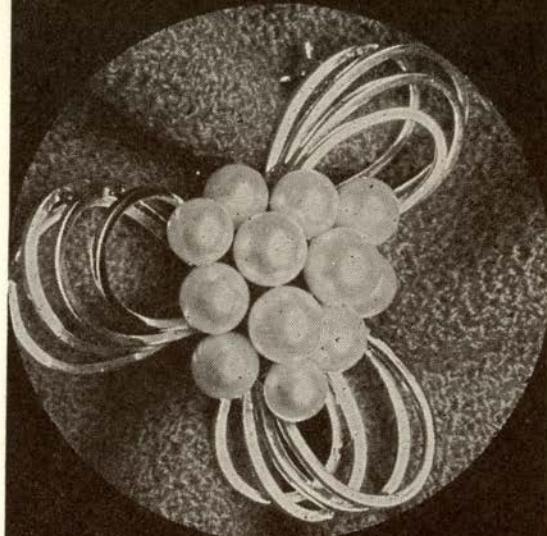
25 23 21 18

29

25 23 21 18

Kitamura Pearls

世界の人々に愛される
キタムラパール



北村真珠株式会社

神戸：元町店 TEL 33-0072
東京：スキヤ橋店 TEL<571>8032

晴れの日の

ウェディングケーキ



北欧の銘菓

ユーハイム コンフェクト

本社・工場及熊内店/神戸市東灘区熊内町1(市立美術館東隣) TEL 22-1164
三宮センター店/神戸三宮センター街(洋菓子・喫茶・バー) TEL 33-2421
生田店/神戸三宮生田筋(階上喫茶室) TEL 33-7343・0156
さんちか店/神戸三宮地下街スイーツタウン TEL 39-3558

★わたしの意見

町全体が
一つの芸術作品に



山口 秀男

〈朝日新聞神戸支局長〉

CMソングではないが、大きいことは、いいことだ。小さいのもいいだろうが、小さくて、つまらないのではなおつまらない。何かにつけて、箱庭からの脱出が大切なんだな。天下泰平のぬるま湯の中では、危機感のはけ場もない。そこで、いたずらに刺戟的で、やかましいものだけが流行する。人間疎外を、その中でつかの間でも忘れようとする。ときにはアングラもいいが、だからこそもつと大らかで自然と調和、共存したものがほしい。

太陽がほしい。

いやなものが一つある。押しつけだ。身近なことではショッピング。店に入る。「どれにしましよう」「お予算はいくらくらいのことですか……」一とたんに買うのがいやになる。夏、海に行く。店先から、ボリュームを最大限にあげて、わびしい流行歌なんかが休む間もなくがなりたてる。ほつといてくれ、とどなりたくもなる。コウベという町は、そうした押しつけがましさのないところが魅力だった。自由で、近代的で、おおらかで……そんなものを守ってゆきたいな。

須磨離宮公園の現代野外彫刻展は、こんな願いを幾分でも満足させてくれるものだと思う。海と緑の中で、いろんな作品が、いろんな主張をしながら、無理もなく自然の中に息をしている。観客は、好きなときに、好きな形で、好きなように見ればよい。不思議に心安まり、豊かになってくるから妙なのである。

近ごろ、私はまた、一つの幻想にとりつかれる。雨あがり、空気の切れるような、たそがれに、市章山のてっぺんあたりで、数百人の野外演奏会をやれば、素晴らしいだろうな、と思うのだ。ガーシュインのラプソディ・イン・ブルー。ドビュッシーの雲もいい。遠くで耳をすます人、近くで見て聞く人。一瞬、時は停止して思索の人となる。ゴタゴタと飾り立てる必要はない。猿真似をすることもない。コウベは、町全体が一つの芸術作品になればよい。バラバラのようでまとまっている。そんな町になればよい。

*世界で最も名誉
ある時計ロンジン



特 約 店

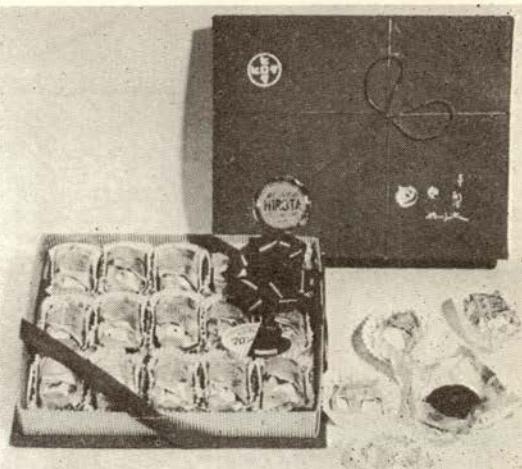


美 田 時 計 店

元町店・元町三丁目 TEL33-1798
三宮店・さんちかファンシー・タウン TEL33-8798

ヒロタの マロングラッセ

“新栗発売,,
秋の味覚を世界の銘菓で！



洋菓子のヒロタ

元町店 三宮店 さんちか店 秀品店
33-2340 32-1227 39-3474 23-2312

隨想

三題

日本青年彫刻家 シンポジウム 報告

山口牧生

△兵庫県青年彫刻家集団▽

一九六八年、七月十五日から八月三十一日に至る一ヶ月半、香川県小豆島内海町福田の石切場に彫刻家たちのふるうツチの音が高くこだましていた。

性別、年令、経歴の一切を問わず、自費自弁で、制作過程そのものを解放して、巨石にいどもうという呼びかけに応じて、全国から三十九名の彫刻家が参集した。北は秋田から南は宮崎まで、わが兵庫県からも小林陸一郎、川久保健三、広島照美、鹿間厚次郎、藤本敬八郎、小川睦朗、大垣圭介、井原良忠、荒木高子、山口牧生の計十名が参加した。

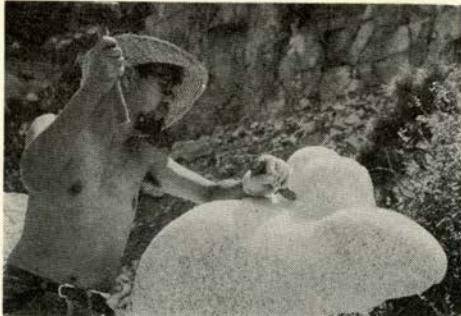
宿舎には、石材組合の石工養成所跡大広間や部落集会所を提供してもらつてざこ寝した。食事は飯場で、宿泊料込み一日四百五十円でやつてもらつた。文字どおり寝食を共にした一ヶ月半であった。

朝は日の出前四時半頃になると

目ざとくめざめたものが、足音をしのばせて起き出る。人を起すま

いとの配慮であるが、気配を感じて次者が起き出る。こうして六時すぎには大広間に人影はまばらになる。ふとめざめて自分がたつた一人とり残されたことを知ると、重いわびしさがおそう。彼は翌朝こそ一番手たらんことを決意する。寝しづまつた村をぬけ出でまだ手もとの暗い石切場で、最初のツチの音一発をひびかせることには、人知れぬ痛快さがある。

しかし石彫というものは、多少の上手下手はあっても、ある絶対的な労働量を強いるものである。



一月の炎暑はすさまじいものであつた。汗は滝のように流れ、体力ははげしく消耗した。正午近くなる

と誰いうともなく、「無駄な抵抗はやめよ」と声かけ合つて溪流へ降りた。そこで水浴して汗を流し衣類を洗濯した。水は澄んで、冷たさが体の芯にこたえた。

八月十二日、大ハッパを合図にこの溪流の河原でフェスティバルが開かれた。現場の人、部落の人——われわれはもうみんなとほんとうに友だちだった。乾杯し、手拍子うつて歌い、抱き合つて踊つた。

フェスティバルを境に、ぼつぼつ作品を完成して引き上げてゆく人たちが出てきた。次第にこだまするツチの音は淋しくなつて、山に秋の気配は濃かつた。夜、村の居酒屋で、石工さんとかわす話もしめやかになつた。「あんたがたは、ほんにようシンボーしなさつ

て、日盛り三時間程昼寝して、夕方七時すぎまで、労働基準法にふれるような仕事ぶりをしたのは、決して見栄や酔狂からではなく、一日仕事を休んだものは一日おくれをとる、石彫のきびしさにムチうたれてのことであった。

た。シンボジウムとはシンボージュムのことじゃね。また来年も来なさいよ。」すべての村人が別れを惜しんでくれた。

こうして八月三十一日シンボジウムは終った。今、島に十七点の作品が残されている。現地の好意に応えて自発的に残されたものである。これを基礎にして、小豆島福田に一大石彫公園を作ろうといふ話がすすめられている。すでに現地に準備委員会が出来て動きはじめている。瀬戸内の海に臨む扇状傾斜地一万坪がそれである。島を去る日、フェリーの甲板からこの候補地を指さし僕らの眼底にはもうそこに百余点の石彫群が白く輝いて林立するのが見えたのであった。

ロンドンだより

小川淳子

ヘジエトロ・インフォメーションセンター

ロンドンの七月は青い空、あふれる太陽。髪の毛をなびかせて歩くミニミニスカートのきれいな足をした女のコたち。茶色のまあるい大きなサンダルをかけて、手にした袋からさくらんぼをヒヨヒヨとまんべんと入れつつ歩いていく彼女達はすてき！ああ、いい天気、サンドイッチを、ハイド・



てきたのだ。六月下旬から二週間プログラムは二つに分かれ、忠臣蔵と董坂観音靈験記、釣女を上演する日と、勧進帳と曾根崎心中の二つを上演する日とがあつた。私は後者の方をみた。友達が切符を二カ月も前から手に入れ、ぜひ、ジユンコに説明させるのだとほりきつて出かけたのがみんなで五人実際、はじめて文楽を観るのに、それがロンドンの劇場とは何とも奇妙な気持。

イギリス人の彼等には、言葉が

パークの芝生に寝ころんで食べた。かしく聞こえるらしい。うら声をい、と、思いたいのだが、このところしばらく夏らしい日がちつともないのである。すっかり冬の洋服をかたずけてしまったのに、又引き出して着ている始末。道行く人はオーバーコートに身を包み顔をしかめて天気の悪さをなげく。最近新聞の文化欄をにぎわしたのが、"WORLD THEATER SEASON"における "JAPAN BUNRAKU NATIONAL THEATER"。文楽がイギリスにやつ

勤進帳の弁慶の義経に対する忠誠心とやらはヨーロッパの騎士道精神と較べてみて、とうてい彼等には理解できなかつたにしても、

この文楽は大変受けたようです。日本のトラディショナルが海外でこんなに受け入れられたことを嬉しく思い、日本にいた時、身近に感じていなかつたものを、日本を離れて、はじめてしみじみと味わうなんて、ちょっとおかしな気もしました。

ロンドンに住んで、またたく間に九ヶ月たちました。今、週二回のカレッジ（夜です）、昼間はハイド・パークに面した、ロンドンで一番高級なオフィス街だとされている PARK LANE のビルの中で JETRO に属するインフォメーション・センターで仕事をしています。したがってイギリス人家族から独立し、今は自分で FLAT (アパートのこと) に住んでいます。

わからないので淨瑠璃はひどくおかしく聞こえるらしい。うら声をかしたり、大声で顔を赤くしてさけんでいる様子みて、時々、笑いをこらえたり、びっくりしたような顔つきになる。幕あいに外に出て。"MARVELOUS COSTUME" すばらしい衣裳」と誰もがいっている。

今日の詩祭

君本昌久

（詩人・市民同友会事務局長）

神戸で「今日の詩祭」をやろうと呼びかけたのは蜘蛛グループの4人であった。が、そのプロモーターを引き受けざるを得なくなつたのは、ボクであった。

かつて、六年前、「七月の詩祭」を蜘蛛グループで二年つづけたことがある。二回とも百人の参加者があった。そのときの詩祭は、個人詩集の出版記念会を広げ、アトラクションのおまけをそえたものであった。もちろん、ビールをのんだり、おにぎりをくつたりすることもそのおまけのなかにはいつている。

ところが、それから六年、詩集は次々出るが詩祭の火は消えたままだ。しかし、「夢よもういちど」というわけではない。

書いて発表（活字に）しておわりという、詩の習慣から、書いたものを読んだり、歌つたりすることに置きかえてみたらどうなるかその有力なスピーカーである片桐ユズルはいう。「ぎりぎりまで意味の重荷をしょわされた結晶のよな詩は歌にならない。——すべてのひとが、仮になるように、すべてのひとが歌い手であり、人の

上下、物（楽器）の上下、才不才、巧拙など問題にならず、だれがどのようなスタイルで、どんなことをうたつてもすばらしい——そういう美の淨土をめざしてフォーカ運動をすすめていきたい。」

だからといって、「今日の詩祭」にフォーカ運動の火種をつけようというのではない。が、現代詩の世界で進行中である「読む」「歌う」というクールな状況を知らぬいとして、目をつぶつてしまふわけにはいかないだろう。

そこで、「今日の詩祭」で準備したのは次のことであった。まず沢山の詩の書き手に詩を書いてもらう。それを「今日の詩」という詩集にまとめ、読む、歌うという自作自演をしてもらう。次に、詩の書き手（シンガー・ライター）といふわけにはいかないから、詩の朗読について意見をもつてある詩人や批評家を五人ほどにしほつて自由にしゃべつてもらう。三つ目

は、読む、歌うということに得意であるひとから詩の実演をしてもらう。これだけのことをするためには、詩祭でののみくいは、禁欲するということを共有したいためのものであるにすぎない。

戦後まもなく「歌う」詩から「考える」詩へ——ということがマジメに探られたことがあつたが「今日の詩祭」はそのことを置きかえようとするものではない。むしろ「考える詩」でも、快樂できるというふうに思ふ。——

補記■でも「今日の詩祭」のように大がかりな形をとらない、もっと小人数による集まりで、詩の朗読をする習慣を時時所につくっていく方が、本当は詩の快樂にはふさわしいのだろう、とおもう。

が詩祭のなかで自足していなければならぬ。さらに、自足ということは、上半身だけではダメで、下半身が反射していなければならぬ。広辞苑によれば、朗読とは声高々、趣アルヨウニ読ミアゲル方法——とあるが、この解釈でやれば下半身は反射しないだろう。神戸での詩を読んだり歌つたりして、いつでも、広辞苑の朗読方法とは遙かに違つてゐる。としてもここでは現代詩を読んだり歌つたりして、いつでも、広辞苑の朗読方法とは遙かに違つてゐる。としても神戸での詩をめぐる動きのなかには、詩を考える姿はあっても、詩を読み、歌い、楽しむ姿は見当らない。

か」という粹なアイディアが淡々会のスタートになった。



★ある集いその足あと

淡々会について

植田二郎

(淡々会会話人)

淡々会は、たんたんかないと読む名附け親は、兵庫日産自動車の中巻弘副社長である。

昭和三十九年。そのころ神戸のタクシー業界には、兵協と神協と二つのグループがあった。が、中巻氏は「グループのわくをはずして、みんな淡々とした気分で、商売はぬきにして、日頃縁の薄い文化的な、美術や生活にうるおいを持たせる勉強会を親睦をかねて、毎月一回開き、集まろうではない

か」という粹なアイディアが淡々会のスタートになった。

現在会員数は二十四名。殆んど自動車販売とタクシー業界にたずさわるサムライばかり。毎月の企画は会員の希望をとり入れて、バラエティのあるプランをたてる。出席率は非常に良い。それというのも、会長も幹事もなく、みんなが同一の趣味で結ばれた、大変に気楽な雰囲気があるからだろう。

最近の例会をご紹介しよう。六月には、会員層の年令がかなり高いので、藤田労災病院長を講師にまねて「これから健康管理」をきき、七月は、神戸市企画局調査部副主幹の諸岡博熊氏に「これから神戸市、兵庫県の未来図」

八月は、丹波焼の日本一の蒐集家として知られる中西尚古堂の中西通氏に、壺など作品を持ってきてもらって「丹波焼の歴史」をきいた。その後で年に二回は必ずやるお楽しみの淡々会セリ市を開く。これは会員の親睦を計るためと、会を面白くするために、皆がそれぞれ作品を持ちより最低価格だけきめて「なんばや／なんばや！」とセリ、入札するのである。

今月は、神戸新聞の論説委員樋真澄氏を招いて「最近の世界情勢」を話して頂いた。チエコ問題、スチードントパワー、また明石架橋まで、質疑応答がかわされて、皆真剣だ。年に一度は遠出をする一泊で名古屋の徳川美術館や、香住の応挙寺へも行った。また白鶴美術館や、京都博物館、大和文華館、奈良博物館などへ出かけて、美術品に親しむ。会員もそれぞれ刀剣、矢立てや古時計、丹波焼など陶器、古美術を集めの人もあり

奈良朝の貴金属をてがけては商売人はだしの目つきになった人もある。そしてお互いに知らないところを教えて勉強する。ちょっと面白いのは、頬母子講をつくつていて、美術品を買うときのお金や、一泊旅行のお金にあてる人もあり、これがまた、なかなか人気があるのである。現在会員は、枝松義男(文化タクシー)、玉岡英一(明交タクシー)、橘末一(東洋タクシーライ)、藏野恵造(大開タクシー)、松本昇(みなとタクシー)、河野繁(日新オート)、椋本四郎(宝交通)、川只昭(神栄タクシー)、二木義雄(安全タクシー)、岡田喜太郎(近畿タクシー)、志方米吉(長田タクシーア)、谷崎義光(東亜タクシー)、植林喜造(計理士)、森川正則(いすゞ自動車)、中巻弘・植田二郎・田畠春三郎・石倉正直(兵庫日産)、村田数雄(中央交通)、中村峰雄(三和タクシー)、安広幸一(御影タクシーア)、谷水一二(甲南タクシー)、本正(親和タクシー)、永田政市(加古川ビル)氏など二十四名である。

男らしさが
匂う！
大和屋シャツ

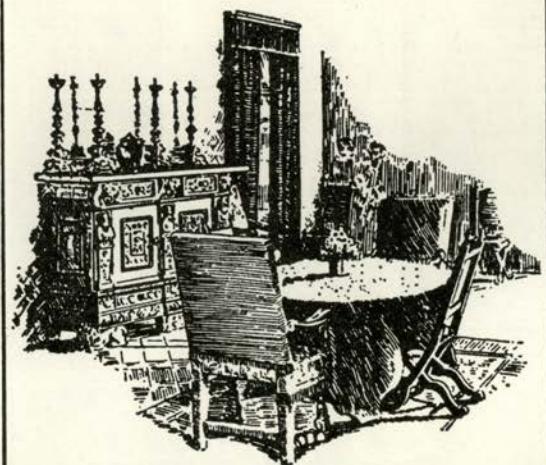


紳士シャツ専門店

大和屋シャツ

三宮センター街 TEL 33-6956

家具・室内装飾・工芸品



永田良介商店

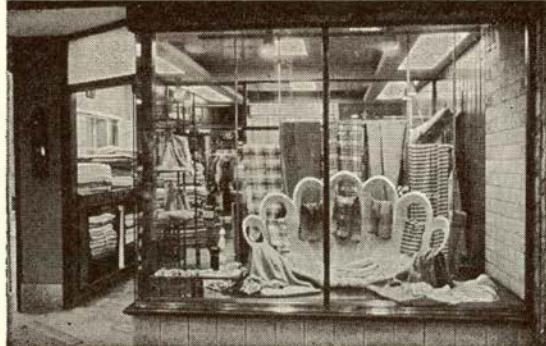
神戸市生田区三宮町三丁目・大丸前・電話神戸(39) 3737 (代表)
東京店・東急百貨店 日本橋店内 1階 03(211)0511
本店(渋谷) 6階 03(462)3180



Lady's Shop

La Mode

MOTOMACHI KOBE TEL 33-5689



マキシンのベレーに
エレガンスな冬の足おとが…



マキシンの帽子のおもとめは
全国有名百貨店でどうぞ

婦人帽子

マキシン

神戸・トアロード 東京・銀座3-2
TEL (078) 33-6711-3 TEL (03) 535-5041